

半導体漫遊記

湯之上隆

90

DRAM、NANDフラッシュメモリ、液晶テレビと、日本メーカーを次々と蹴落とし、スマホでも米アップルを追い越して、各分野で世界シェア1位を獲得してきた韓国サムスン電子の業績が急激に悪化している。本稿では、サムスン電子が直面している三つの危機について論じる。

100億スマホを仕掛けたのは、台湾メデアテックである。メデアテックは、ファ

発費もかげずに、その性能のスマホを極めて安価に作れるようになった。それ故、中国では、「靴屋でも明日からスマホメーカーになれる」とまで言われるようになり、400社を超えるスマホメーカーが乱立しているように負の波及効果が

の流れは、世界中に広がるものとしてい

るところが、サムスンの第二の危機は、GALAXYの売れ行きが前で行う垂直統合型を悪化すると、内製して買っている。つまり、多くのスマホメーカーのAM、NANDフラッシュメモリ、液晶パネルを分散させているの

が水平分業によりリス

に對し、サムスン電子

は、日本の過ちと同じ

韓国サムスン電子、業績悪化

3つの危機に直面

プレスメーカーとして、スマホ用プロセスを設計している。その最大のスマホ市場となった中国で、メデアテックはスマホ用プロセスの出荷個数シェア1位になった。それはTSMCなどのファブリー、スマホの組立ては鴻海精密工業

及ぶことである。

込んでいるのである。

第一の危機は、今やサムスン電子の営業利益の約7割を占める高性能スマホGALAXYが、爆発的に普及する100億スマホによって、イノベーションのシレンマに陥っていることである。

その結果、100億スマホが大流行している中国では、大した開

世界多くのスマホメーカーは、プロセスの設計はメデアテックなどのファブリー、前主義を貫き水平分業できなかったこと、このE.M.Sに委託し、は、日本の過ちと同じ

低価格に対応できずイノベーションのシレンマに陥ったこと、

大きな原因の一つである。サムスン電子

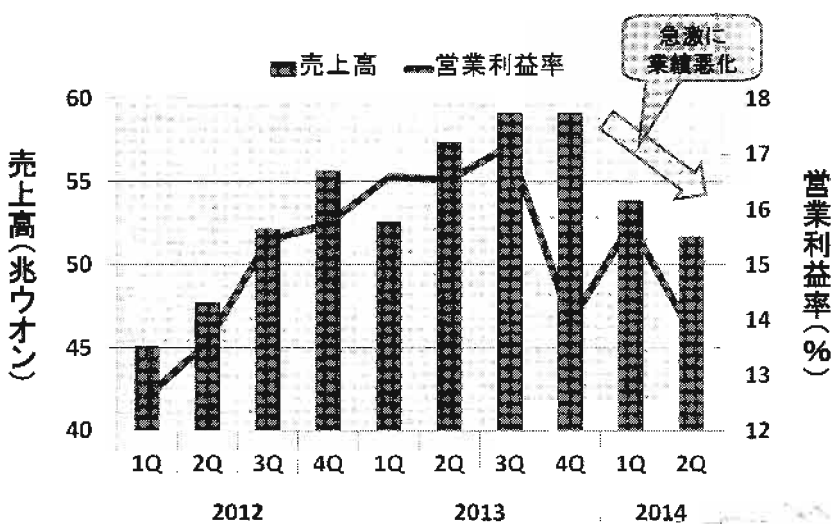
を下してきたが、それが、グループの求心力にもなっていた。

業績が急激に悪化している今こそ、経営に大舵を振るわなければならない。

以上、サムスン電子が直面する三つの危機について述べた。サムスン電子は創業以来、最大のピンチを迎えていると言える。

サムスン電子の四半期毎の売上高および営業利益率

出所：日経新聞2014年7月9日



(微細加工研究所・所長)